

外国語活動・外国語科の授業で自信をつけ、世界とつながる
京丹後市の小学校とベトナムの小学校がオンライン授業交流を実施

令和7年11月21日
京丹後市教育委員会

今年度4月から英語力向上支援ソフト「ELSA Schools」(AI英語発音支援サービス)を小学校5・6年生に導入した京丹後市が、ベトナムのELSA利用校とオンライン合同授業を実施します。

今回のプログラムは、小学3年からの児童を対象としており、子どもたちが「英語って楽しい」「伝わるって嬉しい」という感情的な成功体験を先に持つことで、その後のAIを活用した英語学習の効果を飛躍的に高めるという“プレ・エデュケーション”の考えに基づいています。感情が学びを強化するという最新の脳科学の知見を教育現場に応用した、全国的にも新しい取り組みです。

1. オンライン授業交流の概要

実施日 (日本時間)	参加校	参加学年・人数	交流相手(ベトナム)
11月25日(火) 11時45分～12時20分	網野南小学校	小学3年生 27名	Van Canh Primary School (小学3年生)
11月26日(水) 10時00分～10時35分	大宮南小学校	小学4～6年生 36名 (混合クラス)	An Duong Vuong Primary School (小学3年生)
11月26日(水) 11時45分～12時20分	長岡小学校	小学4年生 8名	Le Huu Tuu Primary School (小学3年生)

2. 取材に関するお願い

つきましては、この画期的なAI活用と「英語への前向きな気持ちを醸成する」プログラムの現場を、ぜひご取材いただきたく、ご依頼申し上げます。

- 取材可能日時：11月25日(火)、26日(水)の各交流時間帯
- 取材対象：授業の様子、児童へのインタビュー、学校関係者へのインタビュー

3. 本プログラムのねらい等

■ 1. 背景:感情が学びを強化する「プレ・エデュケーション」の考え方

子どもが学習に向かううえで最も大切なのは、「心が動く経験」を先につくることです。京丹後市では、英語学習の本格化を前に海外の同世代とつながる機会を設け、「英語って楽しい」もっと話したい”という前向きな動機づけを育むことを狙いとしています。

脳科学の研究によると、感情的な経験は後の学習の理解度・定着度を大きく高めることがわかっています。今回の国際交流は、まさにこの「感情 → 学び」を引き起こす仕組みであり、AIによる学習効果を最大化するための出発点となります。

■ 2. 「リアル交流 → AI学習 → 再び交流」の学習サイクル

京丹後市では、今後中学校でも海外校との交流を予定しており、以下の循環モデルで学びの質を継続的に向上させます。

1. 海外交流:心が動く体験
英語で伝わった喜びが、学習の目的を形づくる
2. AI学習:目的に向かう個別最適化された練習
ELSAによる客観的な発音フィードバックで確かな力と自信を蓄積
3. 再び海外交流:学んだ力を試す実践の場
学習の成果を体感し、再び「もっと話したい」という動機が強化される

この循環が続くことで、児童の英語学習は「義務」から「自己成長の喜び」へと変わり、中長期的な英語力向上が期待できます。

■ 3. ELSA Schools導入による効果と交流の意義

- AI学習で培う自信: AIによる客観的なフィードバックで発音力を向上させ、「話せる」という自信を積み上げます。
- 国際交流による動機づけ: AI相手に得た自信をリアルな国際交流で実践し、「英語が通じた喜び」を体験することで、本格学習への意欲を飛躍的に高めます。

【問い合わせ先】

京丹後市教育委員会事務局学校教育課 担当: 戸田・長砂

TEL : 0772-69-0620/FAX : 0772-68-9061

MAIL : gakkokyoiku@city.kyotango.lg.jp